

《参考》

表2 飛散花粉数の多い日の予測

	2024年予測	2023年	過去10年平均
区部(日)	35	40	36
多摩地域(日)	40	40	32
都内平均(日)	38	40	33

○ 飛散開始日の予測

飛散開始日の予測については、1月の日単位の平均気温の積算値のほか、スギの花芽が休眠に入った後の11月以降の気温の推移等を総合的に判断して行っています。

しかし、この先の気温が予測よりも高くなったり、2月上旬に春一番(南風)が吹いたりした場合には、飛散開始日は予測よりも早まる可能性があります。

最新の飛散開始日の予測は、2月初めごろにホームページでお知らせします。

○ 飛散開始日の定義

一観測地点で、1月以降にスライドガラスの1平方センチメートル内にスギ花粉が1個以上捕集される日が、原則として2日以上続いた最初の日としています(「空中花粉測定および花粉情報標準化委員会」の合意事項によります)。

なお、飛散開始日以前にも少量の花粉が飛散しています。

○ 飛散花粉数が多い日の定義

飛散花粉数が多い日とは、花粉捕集器を用い、捕集した花粉の数値が1日あたり30個/平方センチメートル以上の日としています。

飛散花粉数の表示ランクについて、1日あたりの飛散花粉数が10個未満を「少ない」、10個以上30個未満を「やや多い」、30個以上50個未満を「多い」、50個以上100個未満を「非常に多い」、100個以上を「極めて多い」という5つの区分となっています(図2)。

なお、この表示ランクは、日本花粉学会「花粉情報等標準化委員会」において、採用されているものと同じ区分になっています。

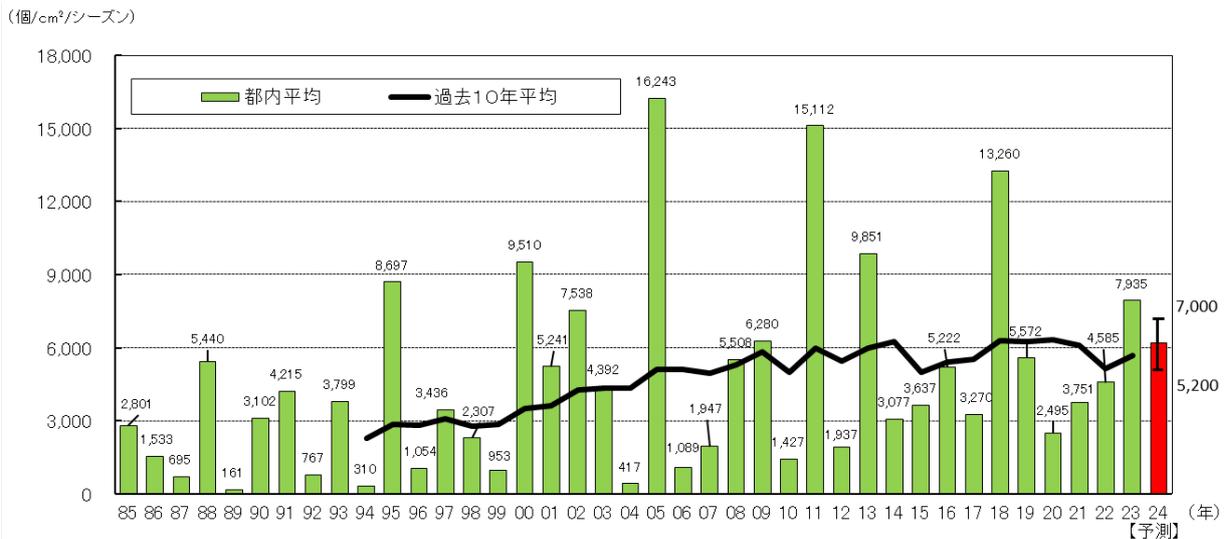
図2 花粉数の区分

区分	ダーラム法による測定 (個/cm ² ・日)
少ない	10個未満
やや多い	10個以上~30個未満
多い	30個以上~50個未満
非常に多い	50個以上~100個未満
極めて多い	100個以上

○ 飛散花粉数の経年変化(過去10年平均)

都内の飛散花粉数の経年変化を見ると、年によって飛散量の差が大きい傾向にあります(図3)。

図3 飛散花粉数と過去10年平均*4



*4 1990年に千代田で測定開始、1997年に小平で測定開始、2005年に多摩、立川、府中で測定を開始した。2005年以降は、現在の12地点で測定を行っている。